

問1 弥生時代の生活の様子を描いた資料には、人々が稲の収穫作業を行い、その背景に柱の高い建築物が建てられている様子が見られます。収穫したコメを湿気や害獣から守るために、床を高くし「ネズミ返し」と呼ばれる板を柱に取り付けるなどの工夫を施したこの建築物の名称を答えなさい。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

1. 高床倉庫 2. たて穴住居 3. 貝塚 4. 環壕集落

問2 弥生時代に製作された青銅器の一種で、兵庫県の五十六点や島根県の五十四点をはじめ、滋賀県や和歌山県といった近畿地方の府県で多くの出土が確認されている、豊作を祈るなどの祭礼に用いられた道具を何というか。（2024年 京都公立入試 類似）

1. 銅鐸 2. 銅矛 3. 石包丁 4. 勾玉

問3 日本の「奴国」が中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀前後の、日本と世界の情勢について述べた文として、背景や関連性が正しいものはどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）

1. 奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。
2. 奴国の王は、インダス文明との交易を有利に進めるために後漢へ使者を送り、同時期に中国では仏教が日本へ伝来した。
3. 奴国の王は、イスラム教の影響を受けた後漢の制度を取り入れるために金印を求め、パレスチナでは十字軍の遠征が始まっていた。
4. 奴国の王は、織田信長が行った楽市・楽座のような自由貿易を求めて後漢と交渉し、同時期のヨーロッパでは大航海時代が幕を開けていた。

問4 1世紀に倭の奴国の王が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かった背景として、当時の小国の王たちの目的を説明したものと最も適切なものはどれですか。（2023年 大阪公立入試 類似）

1. 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。
2. 中国からの軍事支援を直接受け、近隣諸国を武力で一気に統一しようと考えたため。
3. 仏教などの新しい宗教を中国から導入し、国民の精神的な団結を図るため。
4. 遣隋使や遣唐使のように、進んだ律令制度を学び取り、日本独自の憲法を制定するため。

問5 縄文時代末期から弥生時代にかけて、大陸から伝わった稲作がいち早く開始されたと考えられている、現在の福岡県や佐賀県を含む地域はどこですか。（2016年 奈良公立入試 類似）

1. 北九州 2. 近畿 3. 関東 4. 東北

問6 紀元1世紀ごろ、日本の小国の王が、中国の皇帝に対して貢ぎ物を送る「朝貢（ちょうこう）」を行い、金印を授けられた主な理由や背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 長崎公立入試 類似）

1. 中国の皇帝から王としての地位を認めもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。
2. 中国の進んだ仏教文化を日本に導入するために、僧侶を派遣する正式な許可を得るため。
3. 大陸で勢力を強めていた高句麗に対抗するため、中国と軍事同盟を結ぶ必要があったため。
4. 日本国内の統一を成し遂げたことを報告し、中国への輸出関税を免除してもらうため。

問7 弥生時代の農具である「石包丁」の形状と、その使用方法を説明したものと正しいものはどれか。（2016年 奈良公立入試 類似）

1. 半月形や楕円形の石の側面に穴が開いており、そこに紐を通して指をかけて使用する
2. 長い木の柄の先に鋭利な石を装着し、地面に近い茎の部分から一気に刈り取る
3. 平らな石の表面に多くの溝が刻まれており、収穫した稲を叩いて脱穀する
4. 重い石を棒の先に固定し、土を深く掘り起こして田を耕す

問8 中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国が朝貢した際、光武帝が印綬（印とひも）を授けたという記述があります。この記述を裏付ける資料として、福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印について説明した文として正しいものはどれですか。（2024年 佐賀公立入試 類似）

1. 正方形の台座に蛇のような形のつまみがついており、江戸時代に偶然発見された。
2. 円形の形状に鏡のような光沢があり、邪馬台国の卑弥呼が魏から授かったものである。
3. 木簡と呼ばれる細長い木の板に墨で刻まれており、当時の税制度を詳しく示している。
4. 聖徳太子が隋の皇帝に宛てた手紙の内容が、金印の表面に細かく刻まれている。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 高床倉庫	弥生時代には大陸から伝わった稲作が東日本を含む日本各地に広まり、食料を保存する必要が生じました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気を防ぎ、コメが腐るのを防ぐとともに、柱の途中に板を取り付けることでネズミなどの害獣が侵入するのを防ぐ仕組みを持っていました。
問2	答え 1 銅鐸	弥生時代には、大陸から青銅器の技術が伝わり、日本では主に祭りの道具として独自に発展した。銅鐸は近畿地方を中心に、四国や中国地方からも多く発見されており、稲作の豊作を願う儀式などで使われたと考えられている。選択肢にある銅矛も青銅器だが、これらは九州地方を中心に多く出土する傾向がある。
問3	答え 1 奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。	当時の小国の王が中国（後漢）の皇帝に使者を送り金印を授かったのは、中国の権威を背景に周辺諸国に対して自国の地位を有利にする目的がありました。この紀元1世紀という時期は、西洋においてはローマ帝国の統一とイエスによるキリスト教の創始という、その後の世界史に大きな影響を与える出来事が重なっています。インダス文明は古代、イスラム教や十字軍、大航海時代などはより後世の出来事であり、奴国の時代背景とは一致しません。
問4	答え 1 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立しており、奴国のような小国の王は、強大な勢力を持つ中国（後漢）の皇帝に朝貢（貢物を届けること）して「臣下」としての形をとることで、自らの支配の正当性や地位を国際的に裏付けてもらおうとしました。福岡県の志賀島で見つかった金印は、このような当時の国際関係（冊封体制）の実態を象徴する資料です。
問5	答え 1 北九州	朝鮮半島などの大陸に近い地理的条件を備えていた北九州は、新しい技術や文化の玄関口となりました。縄文時代末期には既にこの地域で水田稲作が行われていたことを示す遺跡が見つかっており、ここから日本列島の各地へと農耕文化が広がっていきました。
問6	答え 1 中国の皇帝から王としての地位を認めもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。	当時の日本（倭）は多くの小国が分立しており、各地の有力者は自らの権威を強めるために、強大な権力を持つ中国の皇帝に使者を送りました。皇帝から「王」として認められ、その証として金印や銅鏡などの貴重な品を授かることは、周辺の他の勢力に対して自らの支配力の正当性を示す大きな強みとなりました。
問7	答え 1 半月形や楕円形の石の側面に穴が開いており、そこに紐を通して指をかけて使用する	石包丁には指を通すための小さな穴が開いているのが特徴です。この穴に紐を通し、手に固定することで、稲の穂を効率よく摘み取ることができました。こうした道具の工夫から、当時の人々が手作業で丁寧に収穫を行っていた様子がうかがえます。
問8	答え 1 正方形の台座に蛇のような形のつまみがついており、江戸時代に偶然発見された。	福岡県の志賀島で発見された金印は、一辺が約2.3cmの正方形の台座に、蛇がとぐろを巻いたような形のつまみ（蛇鈕）がついています。これは当時の中国（後漢）が、周辺地域の支配者に授けた印の形式と一致しており、1世紀の日本と中国の交流を証明する貴重な物証となっています。